

2011年7月26日(火)

「読書による思慮深さ」と「新聞を読んで、自分で考える力、
批判的思考(critical thinking クリティカルシンキング)能力」を身につけよう
ーこの夏は読書を毎日しよう、新聞をスミからスミまで毎日読もうー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：わからない「ことば」に出会ったら「気持ちが悪い」と思い、「辞書」を引いてその「ことば」の意味を調べ、その場で覚える。辞書で調べたことはノートにメモをしておき、そのノートは1ページ目から毎日読み直し、一度辞書で調べた「ことば」と「ことば」の意味を忘れないようにする。そして、「ことば」、「語彙」、「^{ごい}vocabulary ボキャブラリー」の数を増やす。前回(第3回)のお話は、面白かったです。小学生よりは中学生、中学生よりは高校生、高校生よりは大学生、大学生よりは社会に出てからのほうが読む本や勉強する内容は格段に難しくなるので、辞書は数多く引き、よくわからない「ことば」の意味を確かめることが大事なのですね。

A：(林明夫：以下省略)

(1)その通りです。前回のお話をよく「理解」して頂いて、とてもうれしいです。是非、実際にやってみて下さいね。学力は、よくわかっている「ことば」の数と直結しますから、辞書を片時も手放すことなく、自分の身近に置いて使いこなして下さいね。

(2)大学生や大人になったら電子辞書もよいですが、小学生・中学生・高校生のうちは紙の辞書に慣れ親しんで、ボロボロになるまで使い込んで下さいね。

(3)私がお勧めするのは、岩波書店の「^{こうじえん}広辞苑」という辞書です。かなり分厚いので、本棚などに入れないで、はじめから机の上に(右端にでも)置いておき、わからない「ことば」に出会ったらパッと開けるようにしておくのが「広辞苑」を使いこなすコツであると、ある方から教えて頂いたことがあります。「広辞苑」に限らず、辞書は机の上に置いておき、いつでもパッと開けるようにしておく。これは、勉強の極意かもしれません。皆様も、是非、辞書の置き場所をどうするかも含め、辞書の活用の仕方を工夫して下さいね。

Q：辞書を活用する他に、「効果の上がる勉強の方法」はありますか。

A：「効果の上がる勉強の仕方」というよりは、学力を身につける前提となる条件として、「読書による^{しりよぶか}思慮深さ」を身につけることがあります。

Q：読書による思慮深さとは何ですか。

A：(1)「広辞苑」で調べると、次のような意味が示されています。

- ①「読書」とは、書物つまり本を読むこと。
- ②「思慮」とは、注意深く考え思ふこと。思いめぐらした考え。おもんばかり。
- ③「思慮深さ」とは、物事を注意深く考え、慎重に判断すること。

(2)読書で得られるものはたくさんありますが、人生にとって最も大切な「思慮深さ」が得られるのも読書です。

(3)いろいろな本をゆっくりとかみしめながら、また、繰り返し読んでいくと、様々なことを知ることができます。様々な感動や楽しみを得ることができます。スリルを味わうことができます。本格的な読書をするようになればなるほど、深くものごとを考え、自分自身を見つめ直すようになります。

私は、宇都宮市教育委員会から「大人の道德教育」の講師を依頼され、6月22日と7月6日の2日間、「論語」について2時間ずつお話をさせて頂きました。久しぶりに、「論語」の499章全部を何冊かの本をたよりに2か月近くかけて読んでみましたが、「論語」の一つ一つの文章が本当に心に染みてきました。江戸時代には、多くの武士が藩校や私塾で「論語」を学んだようです。多くの庶民が通った寺子屋でも、「論語」を教えるところがあったようです。中国やアメリカ、世界の動きを見ながら、この日本をどうにかしなければとの熱い思いで成し遂げられた明治維新や維新以降の近代日本を形づくった人々の精神には、子どもの頃から慣れ親しんだ「論語」の教えが大きく影響していたことが、「論語」の499章を読み直してよくわかりました。

Q：思慮深さを身につけるためには、どのように読書をしたらよいのですか。

A：(1)大事なものは、どのような本を読むか、つまり本の選び方です。目の前に置いてある本や雑誌を読めばよいというのは、目の前にあるものを食べるのと同じです。あまり変なものや腐ったものを食べると、お腹が痛くなったり病気になったりします。あまり変な本を読むと、皆さんの将来のためにならない、害毒を及ぼすものもあります。自分の身体の中に入る大切な食べ物と同じように、何を読むかも皆様の将来を考えて慎重に選ぶべきです。

(2)私は、まずは、学校の教科書で紹介されている本や、学校の図書室、市や町の図書館の本をお読みになることをお勧めします。本を選ぶことに慣れてきたら、近所の本屋さんに出かけたり、時には大きな街の大きな本屋さんに出かけたりして、よく自分の力で本をよく選び、お小遣いの範囲で購入することをお勧めします。

(3)では、どのように本を読んだらよいのか。本は5～6回読むとよいと私は考えます。読んで思慮深さが身につくような本は、ゆっくりとかみしめながら何回も何回も読むではじめて、作者(著者)が何を言いたいのかジワーッとわかってくるものです。1回目よりは2回目、2回目よりは3回目と、何回も何回もゆっくりと読むことをお勧めします。

(4)1回読んですぐに2回目に取りかかってもよいですが、できれば、しばらく間をおいて読む。私は、夏目漱石が大好きで「坊ちゃん」や「それから」などは3～5年おきに、また、大好きな志賀直哉の「暗夜行路」などは10年に1回ぐらいずつ、思い出したように読んでいますが、回数を重ねるごとに「ああ、これはこういうことだったのか」と、作者が読者である私に伝えたいことが深く「理解」できると感じます。ただ、大切な本は、1回目は小学校や中学校、高校で勉強しているうちにゆっくりと読むことをお勧めします。

(5)「書き抜き読書ノート」というノートを一冊つくっておき、読んでいて気に入った文章に出会ったら、たとえ一行でも書き抜いておく。そして、書き抜いた文章を、何回も何回も読み直すことをお勧めします。もしかしたら、繰り返し読み直した「書き抜き読書ノート」の一節が、皆様の人生の節目、節目で大きな支えになるかもしれません。皆様の「人格の基礎」になるかもしれませんよ。大切にしてくださいね。

(6)夏休みにはこの本を読むと決め、毎日少しずつでも「読書」に励んで下さい。必ず成績がアップしますよ。

Q：新聞も読んだほうがよいのですか。

A：(1)その通りです。8月1日から8月31日までの1か月間、家で購読している新聞を一面からゆっくりとスミからスミまで読んでみましょう。地域や日本、世界で何が起こっているのか、世の中の動きがよくわかりますよ。新聞の記事は、5W1H、つまり When(いつ)、Where(どこで)、What(何が)、Who(誰によって)、Why(なぜ)、How(どのように)の形で大体書かれていますから、そのことも時々確かめてみましょう。

(2)新聞を読むときは、学校の社会の授業で使っている、または使ったことのある「地図帳」を横に置き、ちょっと不確かな地名が出てきたら、どこにあるか確かめてみましょうね。地図で確かめた地名は、日本国内なら都道府県名、外国なら国名といっしょにノートに書いておく。そして、時々「地名ノート」を読み返してみると、とても勉強になります。日本や世界への関心が一気に広がります。

(3)新聞を読んで身につくのは、「自分で考える力」「批判的思考能力^{ひはんてきしこうのうりよく}」です。新聞の記事を書く「新聞記者」は、「社会の Watch Dog(ワッチ・ドッグ、番犬)」と欧米では言われています。社会に何か問題が発生したら、5W1Hの方法で徹底的にその出来事^{できごと}を調べ上げ、なぜそんなことが起きたのか、これからどうしなければならないのかを、番犬が不審者に向かいワンワンほえて事件を防ぐように、社会に警告を鳴らすための記事を書く。書いた人の責任を明らかにするために、記者の名前を添えて記事を書き上げます。

(4)それを編集長が新聞として世に出すことが適切かどうかを判断して、記者の署名入りで記事を出します。このような新聞の作り方を「調査報道」と言い、日本でも盛んに行われるようになりました。

(5)記者は、このような「使命」に基づいて、つまり、文字通り自分の「命を使って」まで、世の中で何が起こっているのかを人々に伝えようとしますから、厳しい表現が多くなります。このような形で伝えられる新聞記事を読んで、どのような考えを持つかは読者の自由です。こんなことが行われたのだから、この世の中はもう終わりだと思える人もいれば、このようなことがないようにするにはどうしたらよいか、自分のできることは何かを考える人もいます。

(6)新聞記事の内容は、新聞社が「このことだけは読者に伝えなければ」と考え、記者が命を懸けて記事を書き、編集者が選び抜いたものばかりです。事実に基づいた内容がほとんどです。ただし、記者も編集者も人間ですから、事実の認識に誤りがあったり、その分析に誤り

があったりすることもあります。読者である我々は、いくつかの新聞を読み比べて、本当はどうなのかを自分の頭で考えることが求められます。

(7)新聞に書いてあることを参考にして、自分の頭で考える。これが「新聞を用いて自分の力で考える」ことだと私は思います。

(8)自分の目の前に起こっている様々な出来事が一体どのようなことだろうかと、批判的に考える能力を身につけることも生きていく上で大切です。例えば、放射能についていろいろなことが言われていますが、一体何が本当なのか、自分の健康や生活を守るにはどうしたらよいのか、自分の頭で考えることが大事です。

(9)小学生は 20 分、中学生は 40 分、高校生は 60 分以上新聞を毎日読んで、「自分で考える力」、「批判的思考能力」を身につけて下さいね。

(10)家で新聞を購読していない方は、親戚や知り合いの家で読ませてもらって下さい。週に何回か図書館に行き、まとめて読むという方法もあります。お小遣いがたまったら、コンビニで新聞を買うこともできますよ。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)本や新聞を毎日のように読むと、難しい文章や難しい内容を素早く読む能力が飛躍的に高まります。本や新聞を毎日しっかり読む人は学力が高いです。

(2)この夏学力を飛躍的に高めたければ、2011 年夏塾長特別講義の第 1 回から第 3 回までの内容に、本と新聞を夏休み中毎日熱心に読み続けることも入れて下さいね。

(3)気に入った記事があったら、発行日の翌日に、家の人の許可を得て新聞記事をハサミできれいに切り抜き、日付けを書き添えて、ノリでノートに貼り付けておくことをお勧めします。「タイトル」をマジックで付けたり、その記事を読んだ後の感想を何行か書いておくことも、とてもよい勉強になります。